

中間発表会 分科会の記録 (5)年 抜粋

【授業者より】

- ・本単元でリーフレットを作って4年生に伝えるという目的意識をもって取り組んできた。
- ・常に相手を意識して授業に臨んでいる。
- ・対話では、誰と対話をさせるのかを悩んだが、あまり書くことができていない子どもの様子が見られたので、意図的に安心できる同じ委員会同士での交流にした。

【参観者より】

(1) 目指す資質・能力を身に付けるための学習過程の工夫があったか。

- ・単元のゴールが明確だった。
- ・これまでの学習を生かして「めあて」が設定されている。
- ・学習活動の中に比較して考え合ったり、共通点を見つけたりする活動があって参考になった。
- ・書く時間を10分で設定していたが、実際子どもたちはもっと時間が欲しかったのではないか。そうすれば、推敲ももう少し時間の確保ができていたのではないだろうか。
 - 教科書の内容を学習する前に書かせた時、10分で設定していたので、同じ時間設定とした。しかし、書くことが苦手な子どもにとっては、もう少し時間の確保が必要だったと思う。
- ・5文の中に、まず何から書いて…というような手立て等があったのか
 - 困ったときには交流したい、という気持ちにさせることを意図していた。だからあえて詳しくしていなかった。
- ・最後に推敲した場面の時に、この時間にはどんな力が付いたのかについては、交流したことでどんなこと
ができるようになったのかが大切ではなかったのだろうか。

(2) 児童は、目的意識・相手意識をもって学習していたか。

- ・子どもたちと確認しながら目的が設定されていた。
- ・工夫や見取りはどうだったのだろうか。
 - 子どもたちが～な相手だから～な工夫をした。という交流をしないと見取りができない。リーフレット、構成等これで最後ではなく、まだこれから構成や内容も変わってくる。子どもたちがどんな作り方をしていたのかノートを見たり、子どもたちに色を変えさせたりして工夫した。
- ・グループで活動したときに単なる作業になっていなかったか。
 - 今日は目的が書くことなので、その時間を確保するために「予習」「まとめる」「友だち同士で見合う」という構想ができていた。

(3) 言葉による見方・考え方を働かせている児童の姿はあったか。

- ・ホワイトボードでの活動の時に、付箋を貼って囲むだけにはなっていないか。そこに見出しを付けることをしなければ見方・考え方にならないのではないだろうか。
- ・他のグループでは相談しあい、見出しを付けているところもあり、上手にまとめていた。
- ・今日やりたかったことが資料と文章をつなげることに感じられた部分があった。ただつながっているのではなくて、どうやればつながっていくことになるのかを共有すればよかったように思う。
- ・B(ウ)を付けたい力として提案しているので、その力を付けようとしているのかどうか…？

5文と限られているので、書きたいことを絞らなければどこを詳しく書こうか。どう書けば4年生に伝わるのだろうか。文章と資料という見方はできていたが、それがどうしてつながっていかなくてはいけないのか。もっと分かりやすく補強するために資料があれば文を短くすればいいんだ…つながりは分かったけど、その意味が分からなければならないのではないか。

(4) 児童が自分の考えを明確にするための教師の手立ては的確だったか。

- どのような点に留意してリーフレットを書けばいいのかの手立てが的確にできていた。
- 今日何のためにホワイトボードを活用するのか、ホワイトボードの手立てがうまく流れていてよかった。
- 子どもたちが相手意識を十分持っていた。

【助言者より】

- 中村小学校は昨年度までは高知県指定教育課程拠点校として、今年度からは新たな研究主題で取り組んでいる。特に、学習過程の工夫、情報の扱い方に関する指導を通して、学習指導要領でどのように指導していけばいいのかというところを常に研究している。

●本時の工夫

- 記述の後にお互いに意見を言い合い、考えを直す。そうするうちにポイントを見つけたり内容を精選したりすることができている。
- どれを書こうか、どんな資料が効果的か、文章と資料の対応は…本時でどんな姿が見られていたのかを振り返ってみると、写真を何枚も持って話しているグループがあった。「これ、資料いると思う？」等、友達同士言い合いながらもう一度文章に戻っている姿が見られた。

●更に、書く活動を充実させるために

①探究的な言語活動の中に、本物の課題意識を取り入れていく。

教師が敷いたルールの上でやっていくのではなく、自主的な学習になるように仕向けて行く。

②時間を子どもたちに渡す。

- 取材や内容ができた子は… 時間がかかった子は…

自己調整力が身についてくるのではないだろうか。

自己調整力は、学びを振り返りながら作り上げていく。

③各領域の学習過程はどうなっているのかを考えながら国語科の学びを繋げていく。



